

「猫と丹後ちりめん」新東西遊記

京丹後市峰山町にある金刀毘羅神社境内に「木島（このしま）神社」という神社があります。この神社は1830年に京都にある養蚕や機織の神社である「蚕の社（かいこのやしる）」、「蚕養神社」から地元の養蚕家たちによって機織りで栄えていた峰山の地に迎えられたものです。蚕の起源神「保食（うけもち）神」を祀ったもので、蚕を害するネズミの天敵である猫像が一對奉納されています。神社の守り神といえば“狛犬”、しかしこの神社の守り神は“猫”なのです。

猫が地域の地場産業を守る象徴として扱われるのは、「**奉られる神様**」と「**奉る民**」が繋がる赤い糸のようなモノが「**こまねこ**」です。この二つの思いが重なった時、大きく盛り上がり、地域の活性化や、地域文化の発展に繋がるにちがいありません。また、この赤い糸を手繰ればシルクロードを通して西の文化にたどりつく物語が、この「ち」から始まり、他の世界と繋がり、丹後の源流へと近づく糸口となるでしょう。

細くて長い物語の最初の始まりが「**第一回こまねこまつり**」です。